

図工・美術部報

ごあいさつ

茨城県教育研究会図画工作・美術教育研究部 部長 瀧ヶ崎 正彦



関プロ造形
教育研究大会
茨城大会前年
度、本研究部
諸事業に対
し、また関ブ

ロ諸準備にと、県内各郡市部長の先生方、部員の諸先生方、関プロ運営委員会各部長、副部长、部員の先生方には、例年の取組に加え様々な御支援、御協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

特に、十一月十五日の関プロブレ授業研究会につきましては、授業公開と授業分科会を中心とした研修を深めることができました。会場校の水戸市立三の丸小学校長 小坏 健二先生、水戸市立第二中学校長 菊池 宏先生、そして両校の諸先生方には、多大なる御支援・御協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

また、授業づくりに関して我々の大先輩である水戸市教育委員会教科指導員 班目 和彦先生には、昼夜を問わず、題材検討の段階から指導案完成に至るプロセスでの助言指導や校内授業研究会等での御指導、さらには関プロ運営に関しましてまでも随時、ひとかたならぬ御指導をいただきましたこと、研究部一同、誠にありがたい限りです。

このようにブレ授業研究会に向けて多くの皆様方の力を結集した取組が展開されてまいりましたが、そこに積み重ねてきたものの大きさを、今、強く感じております。

例えば、昨年十二月二十日、終業式を前日に控えた最も忙しい中を、研究部の授業研究チーム二十五名が日が傾くころ三の丸小学校に集まり、勤務時間を大きく超えてブレ授業研究会の反省を行いました。

茨城県教育研究会 図工・美術教育研究部 広報委員会 (第42号)
事務局 水戸市三の丸 2-6-8 茨城大学附属小学校内 TEL 029 (231) 2831 URL http://kyoikuplaza- ibk.or.jp/kenkyukai14/

研究部の活動は一昨年末の第一回

研修会から数えてこの時すでに十回の研修会を重ねてこられました。磯山芳男研究部長先生をはじめとして遠方の水戸まで、数多くの検証授業を参観を含め、大変な思いで事業推進に当たられてきたことと思います。

さて、この日の研修は、公開した十の研究授業チームに分かれて次の四つの視点から厳しく授業分析をしておられました。

- 一 何を教え学ばせたかったのか。授業で培い育む力は何だったか。
- 二 教育内容を習得させるために、意図的に授業に採り入れたものは何であったか。
- 三 授業刺激、授業技術、発問、場や時間の設定はどうであったか。
- 四 子どもの視点からみて授業で獲得した内容は何であったか。

私は時間を忘れて熱心に授業分析をされる皆さんの姿を見ていて、これがまさに研究のあるべき姿だと思いました。「自分はこう思う。」「こうすればいいのではないか。」そう

いった発言の中に、関プロを創り上げていく仲間意識、もはや第三者ではないという意識が築かれていることが見て取れました。学校は異なるが、同じ指導案で授業づくりに取り組んだことを通して、その題材がねらいたい、子どもたちに身に付けさせたい資質能力の可能性を協力して模索するかけがえのない研究の場を、そこに見ることができました。

いよいよ来年度、本大会を迎えます。本研究部すべての皆さんが関プロ大会テーマのもと、各校で研究活動を展開し、自校の子どもたちのため、図画工作・美術教育の充実発展のため、大いに研究成果を挙げていけることを心より望みます。

最後になりましたが、文部科学省 岡田京子先生、茨城県教育研修センター 近重敦子先生、つくば市教育委員会 中島澄枝先生、大久保小学校 角谷直人先生、大竹小学校 横田次男先生、神谷小学校 山野正三先生におかれましては、ブレ授業研究会当日を含めまして、御公務御多用の中を御指導・御助言を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。



県夏季実技講習会に参加して

「新指導要領に基づく立体表現の指導についての解説」

講師 国立法人埼玉大学 教育学部 美術教育講座 准教授 石上 城行 先生

石岡市立石岡中学校 廣田 圭亮

今回の講習では、新学習指導要領に基づく立体表現の指導について、石上城行先生からの講話と実技の両面から丁寧なご指導をいただき、改訂のポイントを考えることができました。石上先生のヨーロッパでの体験や、「木のような人体」を目指す彫刻家としての活動について、大変興味深くお話を伺うことができました。

今、各教科で「言語活動の充実」が課題として取り上げられています。図工・美術科での表現活動とはどうあるべきか、しっかりと考えていかなければなりません。今回の講習では制作の中での語り合いが、発想や構想を膨らませていく重要な手段であることがあらためて示されました。普段の授業で当たり前のように行っていることですが、それをきちんと位置づけしていくことで、活動のめあてがさらに明確になります。また、語り合いを通して、児童・生徒の作品に対する思いを受け止め、表現手段を選択できるように



サポートを行うことが、教師の大切な役割となってきます。

今回の講習から、「言語活動」という言葉を持って授業に取り組みることが大切であると思いました。学習した事柄を市内の先生方へ伝達し、さらに深めていけるように研修を積んでいきたいと思えます。

第五十二回関東甲信越静地区

造形教育大会埼玉大会に参加して

大会テーマ 「見つめよう 子どもの心 育てよう 確かな力」

筑西市立川島小学校 坂入 洋子

黄金のけやき並木と、秋風に迎えられる、私は所沢を訪れました。

二日目の小学校の公開授業は、画像や映像で良さを感じ取ったり、思いを伝えたりするもので、表現・鑑賞活動が往還したものでした。仲間と手を携えて試行錯誤を繰り返す子どもたちは、眩しく輝いていました。第八分科会のテーマは、「生活との対話〜自分たちの生活空間を豊かに彩る造形活動」。本県からの提案者は、古河市立駒羽根小学校の光山明先生。「日本美術の良さや美しさに気づく美術教育の在り方」題材『屏風絵に挑戦』の実践を通して、古河第二中学校での実践です。修学旅行で古都を訪れ、「日本の美」に漠然とした憧れを抱いた中学三年生が、数々の工夫を凝らした学習を経て、確かな理解を獲得していく姿に感動しました。「生徒に身に付けさせたい力は何か」という軸を明確にして授業を展開されたこと、生徒の実態のとらえ方や題材の配列の工夫、分析と考察の明確さなど、会場

では多くの称賛や感嘆の声があがりました。全体会では本県での次年度開催に向けて、瀧ヶ崎正彦先生からのご挨拶がありました。東日本震災で被災した子どもたちの心や、事務局の先生方の情熱が伝わり、会場の多くの方々が涙を拭っていました。「人づくり しあわせづくり ゆめづくり」のテーマのもと、造形活動から生きる力を見つけ出すであろう、子どもたちのたくましい姿を見ることができると思うと楽しみです。



平成二十四年度茨城県教育研究会

図画工作・美術教育研究部公開授業研究会

（関ブロ造形教育研究会・プレ授業研究会）に参加して テーマ 『人づくり しあわせづくり ゆめづくり』

龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校 横須賀 哲也

三の丸小の子どもたちは、どんな顔でアートの世界に入り込んでいくのか興味津々で参観させていただきました。授業が始まると、それまでは緊張気味だった子どもたちが、素材や表現との出会いに目を輝かせ、教師と一体となって、四十五分間とは思えないような濃密な時間を紡ぎ上げていました。まさにアートが子ども達の手に帰った瞬間だと感じました。意図した表現であったり、時には無意識や偶然から生まれた表現であったりしながら、自分自身の操作で目の前に作品として実現できたときの子どもの感動が参観者にも伝わってくるようでした。また、三の丸小の学校全体の取り組みとして素晴らしいと感じたのは、どの学年でも、友達と互いに「支え合う」「深め合う」「認め合う」場面が授業の中で随所に見られたことです。ややもすると教師が個別の指導や支援に追われて慌ただしくなりがちで

す。三の丸小の児童は、上手に友達との共同や依存ができ、先生に必要以上に頼らず自力解決して学習できているようでした。公開授業や分科会、講演会と、有意義な時間を過ごさせていただき本当にありがとうございます。来年の本大会の成功を御祈念申し上げます

行方市立麻生中学校 小野口 和章

水戸市立第二中学校で、4人の先生の授業を参観させていただきました。特に3人の授業者となった先生方においては、自校の美術室を二中へ移動しての授業となり、その苦労は大変だったかと想像します。

私は「絵画・彫刻」の分科会参加を予定していたので、主として、笠間市立中学校小倉千絵先生の絵画と水戸市立第五中学校村井悟先生の彫刻の授業を参観しました。

小倉先生の実践は鉛筆一本で表現方法を工夫しながら、ピンの特徴や美しさを表現する活動でした。生徒

の「写真のようにリアルに描きたい」という思いを教師の「光を捉え、自分なりのイメージを膨らませて描かせたい」という思いへどう変容させていくかが、興味深かったです。

村井先生の実践は、耐震補強工事でゴミとなった思い出の詰まった校舎のコンクリート片を新しい形として蘇らせるものでした。生徒たちは並べたり、積み上げたりしながら学校への思いを表現し、カメラで撮影後、それを崩し、再度新たな形を生み出すことを繰り返しながら、作品づくりを進めていました。

二人の授業は、素材のよさや面白さをじっくり触れさせる、意欲あふれる実践でした。

行方市立麻生中学校 大輪 一恵

この度、水戸市立第二中学校での公開授業研究会に参加させていただきました。

来年度開催される、関ブロ造形教育研究会のプレ授業研究会というところで、どの授業も発表者の先生方の生徒たちにどんな力をつけさせたいのか、どんなことを感じさせたのかということが分かる授業でした。

表現・鑑賞の各分野において、生徒たちは自ら考え活動することを通し、生徒一人一人が美に対する価値意識を高めていることがとても印象的でした。熱心に取り組む生徒の姿は、今回の研究テーマである「人づくり しあわせづくり ゆめづくり」の趣旨を十分に達成しつつあると感じました。

分科会では、評価や言語活動及び共通事項など、今私たち指導者がさらに必要とする内容や適切な指導方法について、発表者と集まった先生方のご意見をお聞きすることができました。これは今後の題材研究の手だてとなる、有意義な話し合いの場となったことは大変よかったです。

今回研修させていただいたことを今後の指導に活かしていきたいと思っています。ありがとうございます。



平成 24 年度茨城県図画工作・美術研究部研究調査委員名簿

番号	郡支部名	委員名	所属学校名	担 当 テーマ
1	水戸市	安田 知子	水戸市立鯉淵小学校	I
2	笠間市	富岡 典子	笠間市立友部中学校	I
3	ひたちなか市	石井 郁	ひたちなか市立外野小学校	V
4	常陸大宮市	桐原 敦子	常陸大宮市立南方中学校	II
5	那珂市	砂押 秀明	那珂市立横堀小学校	III
6	小美玉市	安藤 広恵	小美玉市立美野里中学校	III
7	東茨城郡	黒澤 靖志	大洗町立大洗小学校	IV
8	那珂郡	小室 厚子	東海村立南中学校	IV
9	大子地区	藤井 美佳	大子町立黒沢中学校	V
10	日立市	山形 幸穂	日立市立泉丘中学校	IV
11	常陸太田地区	富永 京子	常陸太田市立金砂郷小学校	II
12	高萩市	鬼澤 裕子	高萩市立松岡中学校	II
13	北茨城市	菅野 京子	北茨城市立平潟小学校	I
14	鹿嶋市	内野とし子	鹿嶋市立平井小学校	II
15	神栖市	野田 浩一	神栖市立息栖小学校	III
16	鉾田市	牛久保友子	鉾田市立大洋中学校	III
17	潮来市	山口 宏子	潮来市立日の出中学校	I
18	行方市	渡邊 朋子	行方市立羽生小学校	IV
19	土浦市	青木麻理子	土浦市立土浦第三中学校	V
20	石岡市	中島 淳	石岡市立東小学校	V
21	龍ヶ崎市	向後 珠美	龍ヶ崎市立城ノ内中学校	I
22	取手市	鳴海ひと美	取手市立白山小学校	I
23	牛久市	山本理恵子	牛久市立牛久第三中学校	II
24	つくば市	細田 愛	つくば市立春日小学校	II
25	守谷市	疋田 充	守谷市立黒内小学校	III
26	稲敷市	山本 京子	稲敷市立鳩崎小学校	IV
27	かすみがうら市	山口 登	かすみがうら市立下稲吉中学校	III
28	つくばみらい市	小菅 純子	つくばみらい市立小絹中学校	IV
29	稲敷郡	木村 弘美	阿見市立朝日中学校	V
30	北相馬郡	服部 祐一	利根町立文間小学校	V
31	古河市	飯塚 真司	古河市立古河第一中学校	I
32	結城市	松葉谷文子	結城市立結城中学校	II
33	下妻市	中島 えり	下妻市立東部中学校	III
34	常総市	神達 玲子	常総市立五箇小学校	I
35	筑西市	嶋山由美子	筑西市立下館中学校	IV
36	坂東市	飯田 政子	坂東市立逆井山小学校	II
37	桜川市	中澤 吉巳	桜川市立大和中学校	V
38	結城郡	原部 夏代	八千代立安藤小学校	III
39	猿島郡	鈴木 和子	五霞町立五霞東小学校	IV

研究調査委員会

東海村立白方小学校 成瀬 浩

平成二十四年度

一 これまでの取り組みについて

この研究調査委員会では、これまで、本県の図画工作・美術教育の現状の把握とこれからの指導の指針を探るために、アンケートや実態調査などを実施してきました。また、授業で取り上げる題材や児童・生徒への学習指導の在り方を探るため、実践に基づいた研究をしてきました。

その調査や研究の内容と結果は、指導事例集にまとめたりインターネットで公開したりして、図工・美術に携わる先生方に紹介しました。

二 研究調査内容について

○目的について

新学習指導要領の趣旨をとらえた

- I 造形教育で培う力を考える
- II 材料などの良さや可能性を豊かに感じ取る造形教育を考える

授業の在り方を実践研究します。その研究レポートをもとにした研究報告会やレポートの公開により、図工・美術教育に携わる教師同士が情報交換ができるようにし、より一層の図工・美術教育の充実を図ります。

○研究テーマについて

研究にあたっては、授業づくりに関する様々な問題領域（目標、題材設定、指導計画、場の構成、発問、板書、ワークシート、提示資料、児童・生徒の実態など）を視点に次のようなテーマを設定し、研究に方向性をもたせました。

- III 自分らしさを表現する造形教育を考える
- IV 人や作品との対話や関わりを大切にしたい造形教育を考える。
- V 造形教育の広がりを考える

三 研究調査委員について

各郡市地区から選出された三十九名の先生方に、研究調査委員をお願いしました。委員期間は二十四・二十五年度の二年間です。

なお、委員の選出にあたっては、郡市部長名簿の番号を使って次のように委員を選出して頂きました。

奇数番号：中学校 偶数番号：小学校 個人名については別表を参照して下さい。

（本年度は、郡市部数の変更があり、前年度の流れて小中を決定することも可となりました。平成二十六年度は従来の選出に戻ります。）

事務局だより

今年度は関東甲信越造形教育大会茨城大会の前年度ということと、何かと忙しい年となりました。十一月に行われたプレ大会では、多くの方にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

事務局を務めていると、いろいろな人との出会いがあります。この大会においても、講師の先生、授業者の先生、大会の運営に携わる先生、大会に参加された先生など、いろいろな方々とお話をさせていただく機会がありました。そうした方々との出会いは、どれも貴重なもので、自分を大きく成長させてくれるものであると、とても感謝しております。

さて、このプレ大会では、美術教育の大切さを再確認することはもちろんのこと、事務局を務める者として、この大会のような美術教育に携わる者が交流を持てる場をつくることの大切さと、その運営に携わることの責任の重さを改めて実感しました。

このプレ大会では、本大会に向けて、運営における課題がいくつか見えてきました。現在も本大会がよりよいものとなるよう、実行委員の先生方を中心に打合せを重ねるところです。いよいよ今年の十一月は本大会があります。本大会は、公開授業、公開授業の研究協議、県内外の先生方の提案分科会など、充実した内容となっております。ぜひ、参加していただき、茨城の美術教育の活性化に協力していただきたいと思っております。